

## 巻頭言「里山を元気にする秘策とは？」

会長 井田秀行

本州で絶滅したと思われていたチョウ「オオルリシジミ」が飯山市内で発見されたのを機に、この春、晴れて『北信濃の里山を保全活用する会』設立の運びとなりました。関係の皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

本会が目指すのは、「人と動植物のにぎわい」を復活させ、里山を元気にすることです。そして、しかるべき自然は残す一方で、かつての里山がそうであったように、活用できる自然はその再生力を奪わない程度に充分活用する。これが本会のスタンスです。この難題に継続して取り組むためにも、活動方針として私は次の3点を掲げたいと思います。

- ①シンプルであること：初心者や子ども達が気軽に参加できる分かりやすい活動とする。
- ②やりがいがあること：取り組みの成果や効果を誰もが短期間で実感でき、充実感や達成感を味わえる活動とする。
- ③ごほうびがあること：思わず笑みがこぼれるごほうびがもらえる活動とする（大人だってアメ玉一つでも嬉しいもの。もちろん、北信濃を訪れた人に『いいところだね』とほめられても嬉しい）。

里山を元気にするには、まず、その一員である私たちが元気を出さなければなりません。北信濃の里山を熱く語れる人を毎年増やすこと。これが会としての当面の目標です。今後とも皆様の一層のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



飯山市内のオオルリシジミ生息地

・「北信濃の里山シンポジウム」の開催と「北信濃の里山保全活用する会」会員募集

5月22日（日）、飯山市公民館において「北信濃の里山シンポジウム～本州から消えたチョウ・飯山で再発見～」を開催しました。事務局から飯山でのオオルリシジミ発見経過を交えたシンポジウムの趣旨説明の後、井田秀行当会長による基調講演「北信濃の里山自慢話」と題し、北信濃の四季を通した里山の魅力が紹介されました。続いて事例報告として、黒岩山保全協議会・田村規城さんから「黒岩山再生と生息するギフチョウ・ヒメギフチョウ」について、信大農学部の中村寛志教授からは「絶滅危惧の蝶・オオルリシジミの復活・保護活動」について、それぞれ現在の活動状況と課題について説明がありました。



パネルディスカッションの様子

その後のパネルディスカッションでは、パネリストからオオルリシジミを例にとり、里山が生み出した自然や文化、その活用についての意見が出され、北信濃のすばらしい里山を保全活用しながら、全国に向けて発信したいとまとめられました。

当日は120人余りが参加し、「北信濃の里山保全活用する会」加入への呼びかけを行いました。これまでは、オオルリシジミの保護にあたり有志で活動をおこなってきましたが、採集者対策や生息地環境整備における少人数での対応に限界を感じたことと、様々な生物を対象として里山保全活用を体系的なものにする必要があると考え、当会を設立し、広く会員を募集する運びとなりました。

今後は、事業内容や組織体制を固めつつ、充実した活動を進めていきたいと考えていますので、会員のみなさまの御協力をお願いします。

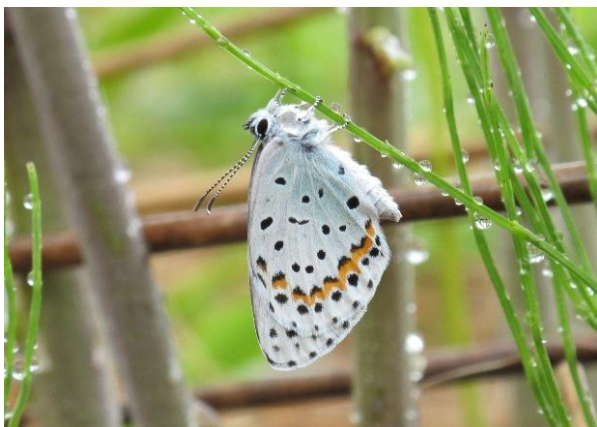
・本年のオオルリシジミの発生状況

本年は春先の低温により植物の生育が遅れ、また、雪解けも遅くなり、当地でのオオルリシジミ成虫の初見は6月8日（例年よりも約10日程度の遅れ）となりました。その後は、多い日で、1日あたり10数頭の成虫が目撃され、6月19日頃に発生ピークとなったようです。

少なかった昨年よりは成虫の目撃数は増え、クララへの産卵数も幾分多い状況ですが、発見当初と比べると確認数は少なく、オオルリシジミの生息に適した環境要因を解明しつつ、保護回復に向けた取り組みが必要と思われます。

・第1回オオルリシジミ観察会の開催

6月11日（土）は当会によるオオルリシジミ観察会が行われ、会員ほか43名が参加、雨が降る悪天候ではありましたが、草葉に止まる羽化間もない成虫を見ることができました（観察ができ、事務局一同ホッとしております・・・）。



観察会当日・羽化間もないオオルリシジミ



観察会の様子：写真撮影する参加者

また、当日は飼育法の説明会も行われ、希望する会員に飼育のお手伝いをいただこうかと思っておりましたが・・・。

## 本年は、オオルリシジミ飯山飼育系統の成虫からの採卵が不調！

オオルリシジミ飯山個体群の系統については、当生息地の絶滅など、いざという時に備え、許可を得て飼育による系統保存を行っています。ただし、継代が5世代目となり、近交弱勢による虫質劣化？・・・が原因してか、本年は産卵しない雌が見られました。飼育の断絶が心配されましたが、安曇野市・丸山潔さんの飼育系統から卵が得られ、今のところ順調に育っています。来年以降、当会員でお手伝いいただける方を募集していきたいと思いますが、クワの増殖・栽培とあわせてお願いします。

## ・オオルリシジミ生息地でのパトロール活動について

オオルリシジミ保護のため、土地所有者と自治会の方々に御了解いただき、当生息地は立ち入り制限を設けています。また、地元の西山地区の方々には巡回パトロールをお願いしています。

パトロール活動を進めるにあたり、違法採集者と識別する必要がありますので、当会員で観察希望される場合は、飯山市公民館内にある事務局の了解を得て、立ち入りをお願いします。

なお、6月19日には関東方面から蝶マニアとおぼしき人が当地を訪れ、注意を呼びかけました。これから幼虫のシーズンを迎え、捕虫網不要で採集されやすい（幼虫の周りに共生しているアリが集るので見つけやすい！）ため、今後1ヶ月は特に警戒が必要と思われる。



## ・黒岩山保全協議会総会と森林整備活動

5月29日（日）に飯山市外様活性化センターにおいて総会が開催され、昨年度の活動状況報告や本年度の事業計画などの議案説明がなされ、承認されました。また、「北信濃の里山保全活用する会」との事務局体制の統括などについても提案され、検討を進めたいとのことでした。

6月26日（日）には、ヒメギフチョウの食草であるウスバサイシンの植え付け作業が行われ、本年も保全活動への取り組みが本格化しました。次回は7月31日（日）に刈り払い作業を予定していますので、御協力いただける方は、飯山市公民館へ御連絡の上、参加をお願いします。



移植用のウスバサイシン



ウスバサイシンの植え付け作業の様子



ギフチョウ：6月19日、黒岩山にて発生盛期を過ぎ、飛び古して翅が擦れた♀がブナ林内で体を休めていました。

## 今後の行事など

事務局

### ・オオルリシジミ保護回復事業認定式と幼虫観察（探索？）会

飯山市に生息するオオルリシジミの保護にあたっては、長野県希少野生動植物保護条例に基づき、オオルリシジミ保護回復事業計画の認定を受けて進められます。

7月23日（土）にその認定式とロープ張りによる保護区域の設置、オオルリシジミ幼虫の観察会（ただ、幼虫の観察時期としては遅く、多くは蛹となってしまっていると考えられ、探索会となってしまうかも・・・あしからず御了承を・・・）を予定しています。

当日、午前9時に現地（旧飯山国際スキー場の下部入り口駐車場）に集合。

午前9時10分から認定式。

午前9時30分、ロープ設置作業。

探索会は午前10：00頃～。

午前12時、昼食、豚汁を会で用意します。

午後1時頃、解散とします。参加を希望される方は飯山市公民館に御連絡のうえ、お集まりください。



7月2日に観察されたオオルリシジミ（3齢？）幼虫

幼虫は淡黄緑色で、体型は扁平なワラジ型。クララの花の蕾に紛れています。成虫の発生は例年より遅れましたが、6月下旬の高温で幼虫の成育が一気に進んだ感があります・・・。蛹になるまであと2週間くらい・・・。

### ・その他、計画（思案）中のもの

今後、黒岩山での観察会（9月頃）、オオルリシジミ生息地の環境整備作業（灌木の伐採等）と「北信濃の里山保全活用する会」総会（11月頃）などを計画しています。

観察会の他、講演会、学習会などなど「こんな企画をして欲しい！」というような会員の方々からの御意見・御要望がありましたら事務局までお寄せください。

## 編集後記

事務局

北信濃里山シンポジウムから1ヶ月以上経過し、ようやく連絡紙を発行することになりました。当初予定したよりも発行が遅れ申し訳ありません。今後は月1回くらいのペースを目指し発行したいと思います。識者のエッセイや北信地域で保全活動するグループ紹介のほか、里山の生きものトピックスなども掲載していきたいと思いますので、会員の方々からの情報提供などをお願いします。里山の保全活用には課題も多くありますが、楽しく活動を進めましょう！

発行者：北信濃の里山を保全活用する会 会長 井田秀行  
事務局：〒389-2253 飯山市大字飯山1436-1  
飯山市公民館内  
TEL：0269-62-3342 FAX：0269-62-5940  
E-mail：kouminkan@city.iiyama.nagano.jp  
編集者・事務局長：福本匡志